

株式上場のメリット、デメリット

文：深見 泰孝

板書例

上場 … 証券取引所で株式の売買が認められること。
そのためには各取引所が求める厳しいハードルをクリアする必要がある

メリット

- ① 評価・知名度がアップする
- ② 資金が調達しやすくなる
- ③ 経営に対する規律づけが強化される



デメリット

- ① 3カ月に1度業績・経営の情報開示が必要
→ 短期間で投資家から経営を判断される
- ② 株式は自由に売買される → 買収されるリスク



上場とは

株式会社は、会社を作ったときから、その株式を証券取引所で売買できるわけではありません。証券取引所で、その会社の株式を売買できるようにしなければなりません。このことを上場（じょうじょう）と言います。ただ、上場するには、各取引所市場が求めるハードル（上場基準）をクリアする必要があります。東証1部市場を例に挙げると、株主が2,200人以上、連結純資産（その会社グループ全体でどれだけの純資産を保有しているか）が10億円以上、最近2年間の利益額の総額が5億円以上、もしくは時価総額が500億円以上、有価証券報告書にウソを書いていないことなどが求められます。また、これに加えて事業が継続的に営め、かつ安定的な収益基盤があることなども求められます。こうした厳しいハードルをクリアした会社だけが、東証1部市場で投資家が自由にその会社の株式を売買できるようになるのです。

上場のメリット

さて、では株式を上場するメリットは何でしょう。これにはいくつかあります。第1に上場している会社は、厳しいハードルをクリアしているわけですから、一般の人や金融機関からの評価が高まります。できる限り安定した会社に就職したい多くの学生たちは、上場会社への就職を目指すでしょう。その結果、上場会社は優秀な人材を採用しやすくなるのです。また、金融機関もお金を貸した場合、返してくれないリスクが低いと考え、上場会社はお金を借りやすくなります。

第2に、上場会社は一般の人や金融機関からの評価が高くなり、知名度もアップするので、その会社がさ

らに規模を拡大するために、お金が必要になったとき、上場していない会社に比べて、容易にお金を得ることができます。皆さんが投資するなら、自分が知っている会社や、よい経営をしている会社（業績がよい会社、評判がよい会社など）に投資しますよね。つまり、証券取引所に上場して知名度を高め、よい経営をしていれば、それだけ容易にお金を集めることができるのです。

第3に経営に対する規律づけ（経営者が株主のために、きちんと働いているかをチェックする機能）が強化されます。上場基準には法律を守って会社を経営しているか、不正ができないようにしているかなど、経営体制が健全でなければ上場させないようなハードルも設けられています。さらに、上場後も健全な経営が求められますので、健全な会社経営が期待できます（もし、ルールを破ったら、原則、上場が廃止（取り止め）されます）。

このほかに、上場すれば誰でも、いつでも売りたい、買いたいという意味とお金があれば、その会社の株式を買ったり、売ったりできます。そのため例えば、その会社の創業者が創業以来、保有した株式を上場後に証券取引所で売却すれば、それまでに投資したお金が回収し易くなるというメリットもあります（上場していなければ、自分で買ってくれる相手を見つけなければなりません）。

上場のデメリット

他方、デメリットとしては、上場会社は3カ月に1度、その会社の業績や経営に関する情報を開示しなければなりません。これは言い換えれば、3カ月に1度、投資家に会社の経営に対する判断をしてもらうこととなります。その結果、多くの投資家から短期で業績を良くしなさいと求められれば、経営者は長期的にたくさん儲けられると思われる案件があっても、短期的に利益を増やそうとします。つまり、長期的な視点で経営ができなくなります。また、株式はいつでも自由に売買できますので、経営者の意思にかかわらず、誰でもその会社を買収することができます。つまり、買収されるリスクも高まります。上場にはこうしたデメリットもあります。

他人にお金を出してもらうわけですから、投資家のために利益を増やすことは、当然と言えば当然ですが、それも行き過ぎると昨今、問題になっている不適切会計などを引き起こす要因にもなるでしょう。したがって、株式の上場には、投資家の利益も考慮した上で、健全な会社経営が求められるのです。

※内容については万全を期しておりますが、配信時現在の情報を基に執筆していること及び執筆者個人の見解も含まれていることをご理解のうえ、ご利用ください。